

まちなみ保存交流館 だより

時の経つのは早いもので、平成二十年十一月に「金堂まちなみ保存交流館」を開館してから無事二年目を向える事が出来ました。これ一重に金堂まちなみ保存会会員の皆様そして交流館を愛していただいている皆様方のご協力の賜と、厚くお礼申し上げます。

十一月に入り、普及啓発委員会では十二月二十五日開催の「子供まち探検パートIV」の実行委員会が行われました。十一月七日には先進地視察研修旅行が行われ、三重県伊勢川崎の商人館と関宿の二ヶ所に、四十名余りで行ってきました。参加者の皆さんは、熱心に見学されていました。

十三日には福井県嶺南地区まちづくりの関係者三十五名が視察研修に訪問され、西村理事長の説明を聞き、熱心に勉強しておられました。お昼はお弁当でなごやかなひと時を過ごされ、午後からは鯉の放流を楽しみました。そして交流館に大きな鯉がやってきました。『ふらりまちかど』で成安造形大学の学生さんがライブペインティングにて作成された作品が、交流館の吹抜けで泳いでいます。一度観に来て下さい。



交流館の庭にも秋本番を告げる南天の実が真っ赤になり小鳥の食事になっています。

また、秋の紅葉と金堂のまちなみを空から視ようと、ヘリコプターでの観光に三十名の皆さんが参加されました。十二月に入り、鳥取県智頭町より観光交流・町並の活性化に取組んでおられる九名の方々が研修に来られ、山脇副理事長の説明を聞かれました。東海ウオークの皆さんは予定には入っていませんでしたが、交流館を見学されました。木之本町にて「田舎暮らし体験住宅完成見学会」が催しされ今後の我が町の古民家再生の勉強にと保存会メンバーが参加しました。大きな収穫がありました。

十二月の半ば過ぎ、塚本信夫さんより立派な葉牡丹を頂きました。葉牡丹が寒い中「ようこそおいでやす」と訪問される皆様を出迎えてくれます。また、新年の布花「アートフラワー」を市田椰良生さんが生けて下さいました。

昭和二十年八月十五日、昭和天皇の「玉音」をもって日本は長い戦争を終結しました。しかし、終戦直後は経済や社会情勢はかえって混乱し、生活物資とりわけ食糧供給は危機的な状況で、一千万人餓死説さえ噂されました。幸い農村部の金堂では、食糧が欠乏するほどではありませんでした。九月十八日には南五個荘村長から各区分長に、自警団の組織が命じられています。このような暗い時代、人びとを慰めたのが農村演芸会でした。南五個荘小学校では十月二十一日に役場職員や演芸隊が来校し「農村慰安演芸会」が開催され大人気を博しました。翌年には北五個荘村に白



子供会・まちなみ保存会合同の「子供まち探検パートIV」が二十五日に開催され、「笑も一杯」「笑顔も一杯」「お腹も一杯」、子供もスタッフも共に楽しい一日を過ごしました。新年を迎え七月初開館、今年も無事運営出来る事を願い、獅子舞にお祓いをして頂きました。

一月も末になり、いよいよお雛様の季節がやって参りました。五十〜六十年前の子供達が、お雛様の準備を始めました。口は動くが手は動かず、時間はかかりましたが見事に

完成しました。フラワーデザイナー市田椰良生さんのアートフラワーのお雛様も展示公開しています。二月に入り沢山の来館客を迎えております。このつづきは次回に。

金堂まちなみ保存会では伝建に関する修理修景の相談を毎日（月曜日は休館）交流館にて受付けています。また、相談の内容を毎水曜日に文化財課と審議会メンバー（住民代表）で協議し町民の皆様のご要望に答えるよう努力していきます。お気軽にご相談下さい。（小杉 富男）

	11月	12月	1月	2月	計
男	520	205	180	603	1508
女	475	197	267	1159	2098
計	995	402	447	1762	3606

	11月	12月	1月	2月	計
相談件数	7	7	8	9	31

会員さんへ

私の居場所

塚本 和子
金堂に住んでも驚く程の年数にびっくりしています。ここで生まれ育った方には、そんな年数かと思われませんが、縁あって嫁いで約三十年！

駅伝参加で五個荘に来られた先輩に「もう滋賀の人になったなあ」と言われました。この町自体も大きくさま変わりし、観光地になって大勢の人が訪れ、言われる言葉の定番が「静かない所ですね」建物を見られた方はすぐ築年



外村宇兵衛邸



数を聞かれる事が多く、年数を言うたびびっくりされます。「昔住んでいた家もこんな感じやったけど、今は・・・」他の場所で生活されている方に言われて初めて自分の住んでいる場所の良さを感じ再認識させてもらっています。まちなみ保存交流館のお手伝いをさせて頂きわずか四カ月ですが、保存会の方々が色々な事を考え運営される姿をまじかに見せていただいたて感心しております。保存の大切さ、大事さ、続けていく難しさも実感しております。

金堂の歴史再発見

五個荘ハワイアンバンド
「リトルボーイズ」の活躍したころ



吉居 正次 西村 忠 山脇 隆 小杉 富男 西村 中澤 正義 嘉夫

青年を中心にハワイアンバンド「リトルボーイズ」が結成されました。これは、山脇隆が「趣味を生かして音楽で町民を慰めよう」と呼びかけ、中江美津子（ウクレレ）・西村忠（ギター）・西村正義（ベース）・小杉富男（ドラム）・中沢嘉夫（ギター）・山脇隆（スチールギター）などのメンバーで、毎週水・日曜日に公民館で練習を重ねました。演奏曲は「リトルボーイズ」・「ブルーハワイ」・「珊瑚礁の彼方」・「北上夜曲」・「かえり船」などで、四十二年に解散するまでの六年間に町民芸能祭や町行事・集落のクリスマスパーティーなど各地で合計八十八回の演奏会を開催し、町民の大きな娯楽となりました。

百合合唱団、南五個荘村ではそよかぜ楽団などの素人楽団が結成され、二十二年十月十六日には金堂青年会による演芸会が開催されています。昭和三十六年には、金堂の